

シ ラ バ ス

(6年次用)

平成30年度 6年次授業日程表

週	日程	月	火	水	木	金				
	3月26日～3月30日	春 休								
1	4月2日～4月6日	個別計画実習 第Ⅰ期 平成30年4月2日（月）～ 5月18日（金）						1-1		
2	4月9日～4月13日							1-2		
3	4月16日～4月20日							1-3		
4	4月23日～4月27日							1-4		
5	4月30日～5月4日							祝日	実習報告週	
6	5月7日～5月11日							1-6		
7	5月14日～5月18日							1-7		
8	5月21日～5月25日							全人医学／ユニオンレクチャー ※期間中に健康診断及びマッチング説明会を予定		
9	5月28日～6月1日									
10	6月4日～6月8日	個別計画実習 第Ⅱ期 平成30年6月4日（月）～ 7月13日（金）						2-1		
11	6月11日～6月15日							2-2		
12	6月18日～6月22日							2-3		
13	6月25日～6月29日							2-4		
14	7月2日～7月6日							2-5		
15	7月9日～7月13日							2-6		
16	7月16日～7月20日							祝日	実習報告週(チューターへの実習状況報告等)	
17	7月23日～7月27日	夏 休								
18	7月30日～8月3日	夏 休								
19	8月6日～8月10日	夏 休								
20	8月13日～8月17日	夏 休								
21	8月20日～8月24日	夏 休								
22	8月27日～8月31日	夏 休								
23	9月3日～9月7日							3-1		
24	9月10日～9月14日							3-2		
25	9月17日～9月21日							祝日	個別計画実習 第Ⅲ期 平成30年9月3日（月）～10月12日（金）	
26	9月24日～9月28日	祝日	3-4							
27	10月1日～10月5日							3-5		
28	10月8日～10月12日							祝日	3-6	
29	10月15日～10月19日	発表準備期間／実習報告週			発表会(2日間)			3-7		
30	10月22日～10月26日	※11月4日（日）に卒業時OSCE実施予定								
31	10月29日～11月2日									
32	11月5日～11月9日									
33	11月12日～11月16日				予定：卒試（国試形式）		※期間中2日間			
34	11月19日～11月23日						祝日			
35	11月26日～11月30日									
36	12月3日～12月7日									
37	12月10日～12月14日									
38	12月17日～12月21日									
39	12月24日～12月28日							祝日		
40	12月31日～1月4日								祝日	
41	1月7日～1月11日									
42	1月14日～1月18日							祝日		
43	1月21日～1月25日									
44	1月28日～2月1日									
45	2月4日～2月8日									
46	2月11日～2月15日							祝日		
47	2月18日～2月22日									
48	2月25日～3月1日									
49	3月4日～3月8日									
50	3月11日～3月15日									
51	3月18日～3月22日								祝日	
52	3月25日～3月29日									

科目名：全人医学

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 氏 職 名	地域社会医学・健康科学講座（疫学分野） 准教授 篠原 正和
	連絡方法	TEL：078-382-5541 E-mail: mashino@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 氏 職 名	内科系講座（先端緩和医療学）/神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科・医員 大前 隆仁
	役 氏 職 名	外科系講座（麻酔科学分野） 准教授 高雄 由美子
	役 氏 職 名	内科系講座（医療情報学分野）／附属病院医療情報部 准教授 高岡 裕
	役 氏 職 名	生化学・分子生物学講座（生化学分野） 教授 中村 俊一
	役 氏 職 名	医学部附属病院 副病院長・看護部長 松浦 正子
担当教員 (学部外)	役 氏 職 名	神戸大学理事・副学長、神戸大学大学院法学研究科 教授 井上 典之
	役 氏 職 名	神戸大学名誉教授 丸山 英二
担当教員 (学外)	役 氏 職 名	国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科 部長 安保 博文
	役 氏 職 名	西本クリニック 院長 西本 隆
	役 氏 職 名	兵庫県スモンの会 会長 春本 幸子
	役 氏 職 名	兵庫県健康福祉部 部長 山本 光昭
学習到達目標	医療の今日的問題とそのアプローチ法を理解する。	
講義の概要・形式	チーム医療，薬害被害者の悲嘆，法律家の立場からみた医師活動，行政の立場からみた医療・保健，漢方医学，緩和医療といった医療の今日的問題について講義します。	
講義内容	（１）チーム医療（担当教員：松浦） 現在、医療の現場ではチーム医療を推進するためのさまざまな努力がなされています。しかし、ひとくちにチーム医療といっても、その捉え方は多様で、医療従事者間でもその認識にはずれがあり、そのことが、チーム医療を困難にしている要因のひとつになっている場合があります。「チーム医療ということばは、立場や役割の異なる職員が勝手に言っているだけでみんなが同じように捉えていないのではないだろうか。そもそもチーム医療の定義というのはきちんとあるのだろうか？」と思われたことはありませんか。そこで、今回、「チーム医療」について改めて整理し、考察してみたいと思います。	

講義内容	(2) 鍼灸 (担当教員：高岡) 鍼灸治療とは、我が国の伝統医学である東洋医学の治療法であり、生薬を用いた漢方治療と一対をなしている。東洋医学では、個人個人の体質に合わせた治療や「未病を治す」を特徴とする。最近では、西洋医学での個別化医療の進展に伴い、西洋と東洋の医学の方向性は融合しつつある。これらを踏まえて本講義では、(1)相補・代替医療について概説し、(2)鍼灸治療の起源と各国での医療としての取り扱い、鍼灸治療で用いる治療器具や医学理論、(3)明治維新の医療制度改革と鍼灸（漢方）および現代での扱い等を解説する。その上で、分子細胞生物学で鍼灸を解析した結果、すなわち(4)骨格筋に及ぼす鍼通電治療の効果、特に遺伝子発現への影響と生体への効果や新たな治療法としての可能性を紹介し、(5)鍼を自ら刺す機会を提供する。そして、時間が許せば鍼治療について直に体験する機会を設け、多面的に鍼灸について理解出来るようにする。なお、全人医学講義の日程とは別に今年度9月頃、(5)刺鍼の演習、について機会を設ける。 (3) 医療・医学における倫理と法 (担当教員：丸山) (a)生命倫理の基本原則について触れたあと、臨床研究を行う際に遵守すべき倫理規範・倫理指針について、最近の動きも含めて解説する。(b)医療事故による法的責任の主要なものとして、①民事責任（損害賠償責任など）、②刑事責任、③行政上の制裁について、成立の要件と効果および最近の傾向を解説する。併せて、インフォームド・コンセントの要件や個人情報保護法制の概要にも触れる。 (4) 終末期医療と緩和ケア (担当教員：安保) 進行癌を患った人は、身体・心理・家族・社会・環境・宗教・生と死への考え方など、各方面でそれ以前にはなかった問題を生じ、生活が損なわれていく。緩和ケア病棟では、患者と家族の生活状況を全体的にとらえたうえで、実現可能な患者・家族の希望を引き出し、その希望の実現のために障害となっている問題の一つ一つを解決していくか希望や問題を別の形に置き換えるとともに、患者や家族の人間関係を再構築することによって、癌によって損なわれた生活全体を改善することを目指している。今回の講義では、緩和ケアを行う上で必要な考え方を概説した上で、症状緩和の方法・難しい場面でのコミュニケーションのとり方など緩和医療の具体的な技術についてお話ししたい。 (5) わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (担当教員：山本) わが国の保健医療を取りまく環境の変化として、①疾病構造の変化、②少子高齢社会、③価値観の多様化、④経済の進展・低成長、⑤国際化の進展、⑥情報化の進展、⑦科学技術の進歩、⑧健康危機管理事例の多発について解説したうえで、医師と法律・行政との関わり、最近の保健医療政策の動向について解説する。また、厚生労働省医系技官の役割とその仕事の魅力について紹介したい。 (6) 東洋医学総論 (担当教員：西本) 漢方医学は、紀元前4世紀頃に中国において編纂された「黄帝内経」という書物にその原型をみるが、その後、中国国内においては中国伝統医学として発展し、それを輸入した日本においては、15世紀頃から「漢方医学」として独自の体系化がなされてきた。その特色は生薬による治療と針灸治療であるが、昨今、西洋医学の発達の一方で、西洋医学では十分な対応ができない症状や疾患に対して、漢方治療が大きな効果を挙げることが認知されてきている。講義では、漢方医学の歴史・基礎を解説するとともに、臨床医学としての漢方が、西洋医学に対してどの分野でアドバンテージを持ちえるか、あるいは西洋医学をどのように補完しうるか、について紹介していきたい。
-------------	---

講義内容	(7) 実地臨床での漢方治療の実践に向けて(担当教員:大前) 現在の病院での医療実践の根拠は西洋医学・科学を礎にしている。日本では、明治政府の医事制度改革により国の医学から伝統医学(漢方医学)を廃止した。以後、昭和時代に一部の漢方エキス製剤が保険診療で認可されたことを契機に医療の一部で存続はしているが、医学部や病院で漢方医学教育はほとんど行われておらず、その有用性は過小評価されていると私は考える。一方で日本は医師国家資格があれば、漢方薬の処方や鍼灸処置を実践できる世界的に類のない国である。ただし、患者に利益を提供するための実践には正しい知識と技術を学ぶことが大原則である。また、医療現場に則した漢方治療の実践も求められる。 今回は、症例をベースに漢方医学的臨床推論(診察から治療方針決定への道筋)を提示し、①うまく活用すれば漢方薬は非常に有効となりうること、②西洋医学メインの実地診療の中で漢方治療をうまく取り入れる工夫、について学んでいただければと考える。また、一部ワークショップ形式で診察方法の練習も行う可能性がある。 (8) ペインクリニック領域の漢方治療(担当教員:高雄) 麻酔科の業務には周術期の麻酔管理、術後の全身管理とペインクリニックがある。この内ペインクリニックでは様々な痛みの治療を経験するが、痛みのメカニズムはまだまだ解明されていない点が多い。特に難治性慢性疼痛では「これをすれば治る!」といった治療法が確立されておらず、神経ブロック、薬物、理学療法を組み合わせた挑戦の日々である。最近われわれはこの難治性疼痛の治療に漢方薬を取り入れてきた。近年、東西医学の融合の重要性が認識されているが、日本の漢方医学は6世紀前半に中国からもたらされ日本の国情に合わせて工夫改良され日本独自の発展を遂げ今日に至る。今回の講義では痛みの治療における漢方薬の役割や効果についてのわれわれの取り組みを自験例を中心に紹介する。 (9) 憲法学から見た性同一性障害 (担当教員:井上) 最近、憲法改正が議論されています。その議論において、野党議員から総理大臣に対して「日本国憲法13条に何が規定されてるか」との質問があり、総理大臣は「個別の条文をいちいち存じ上げない」と回答しました。実は憲法13条は立憲主義の基本原則に関する規定になります。そして、その具体的内容を理解してもらえるように、医学とも関連する性同一性障害の法的問題を取り上げて講義したいと思います。 (10) 医療革新と基礎研究 (担当教員:中村) 医学が飛躍的に進歩した今日に於いても有効な治療法が存在せず、病に苦しむ多くの患者が存在する。進行がんや神経変性疾患に苦しむ患者にとって福音となる根本的治療法の開発が望まれるところである。本講義では革新的な医療を生み出す可能性のある基礎研究を紹介し、医療の未来を考える。 (11) 薬害(担当教員:春本) 医薬品には効果と同時に、必ず副作用があります。副作用がそれだけに止まらず、看過できない被害を人体にもたらした場合が薬害です。日本の代表的な薬害であるスモン(キノホルム薬害)を例に、日本の薬害の歴史、被害実態、日本で多発した原因などについて概説し、日常の診療の中での薬害防止について考えたいと思います。
授業における使用言語	日本語
今年度の工夫(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)	系統講義では取り上げられなかったテーマから、今日の日本の臨床医活動にとって特に重要なものを取り上げた。準備学習・復習、関連科目情報等については、授業中に別途指示する。
教科書・参考書等	
成績評価方法と基準	出欠を重視する。

大講義室

授業科目名 (全人医学)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	5月21日 (月)	10:10～11:10	チーム医療	松浦
		11:20～12:20	鍼灸	高岡
		13:20～14:20	医療・医学研究における倫理と法 (1)	丸山
		14:30～15:30	医療・医学研究における倫理と法 (2)	丸山
1	5月22日 (火)	10:10～11:10	終末期医療と緩和ケア (1)	安保
		11:20～12:20	終末期医療と緩和ケア (2)	安保
		13:20～14:20	わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (1)	山本
		14:30～15:30	わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (2)	山本
1	5月23日 (水)	10:10～11:10	東洋医学総論 (1)	西本
		11:20～12:20	東洋医学総論 (2)	西本
		13:20～14:20	実地臨床での漢方治療の実践に向けて	大前
		14:30～15:30	ペインクリニック領域の漢方治療	高雄
1	5月24日 (木)	10:10～11:10	憲法学から見た性同一性障害 (1)	井上
		11:20～12:20	憲法学から見た性同一性障害 (2)	井上
		13:20～14:20	医療革新と基礎研究	中村
		14:30～15:30	薬害	春本

科目名：ユニオンレクチャー

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	医学教育学分野・総合臨床教育センター 特命教授 河野 誠司
	連絡方法	E-mail:sjkawano@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
学習到達目標	疾病構造の変化から、多くの診療科が関わるケースが医療現場では増えてきている。複数の診療科が関わる症例を選択し、各々の診療科の専門医が病態の診断ならびに治療法に関して活発に討論し、最善の方法を選択していくまでの過程を学生も参加して学ぶことを目標とする。ぜひ、チーム医療と全人的医療の大切さを学んでいただきたい。	
講義の概要・形式	横断的な症例が選択されており、幅広くさらに高度な知識が要求される。学生にも討論に参加してもらうので、テーマに対して積極的に予習をお願いする。	
講義内容/ 学生へのメッセージ	【感染症治療学】 発熱と皮疹を主訴に来院した患者さんに対して、各専門家のアプローチから診断に至った症例を解説します。 ～メッセージ～ 発熱と皮疹を来す疾患の鑑別を挙げ、どのように診断へアプローチするかを学んでいただきたい。 【小児科学】 ダウン症候群は21番染色体のトリソミーにより発症する先天性疾患で、身体的発育遅延・知的障害のほか、難聴、心奇形、消化器奇形、造血器障害などを合併することが多いため、複数の診療科、多様な職種によるチーム医療が求められる疾患である。本講義では、ダウン症候群の合併症と治療や予後について、解説する。 ～メッセージ～ ダウン症候群の多様な合併症について学び、治療や予後も含めて、包括的に学習しましょう。 【腎泌尿器科学】 コントロール困難な妊娠高血圧に対して帝王切開術が行われ、その後の精査で副腎腫瘍が判明した症例です。状況が変化する中で、産婦人科、内分泌科、泌尿器科がどのように対応したかそれぞれの治療戦略を講義します。 ～メッセージ～ 本症例を通じて、各科の専門知識、円滑な協力体制の重要性について学んで下さい。 【腫瘍・血液内科学】 現在のがん治療は、抗がん剤、手術、放射線を組み合わせて集学的に行うことにより成績を向上させている。今回食道がんの症例を用いて、複数科で連携したがんの集学的治療の重要性について解説します。 ～メッセージ～ がん治療における他科との連携の重要性について学んで下さい。 【食道胃腸外科学】 胃癌に対する手術を行うにあたっては、周術期管理に加えて、術後の栄養障害への対策、術前術後の化学療法への対応などが必要である。そこで実際の胃癌手術症例における周術期管理・服薬指導・栄養指導・リハビリなどについて解説する。 ～メッセージ～ 消化管手術は患者の生活に大きな影響を及ぼすが、それを軽減するためにどのようなことを行っているかを学んでほしい。	

講義内容/ 学生へのメッセージ	【糖尿病・内分泌内科学】 膵β細胞が破壊されて発症する1型糖尿病は、インスリン治療を行ってもコントロールが困難な疾患である。進歩する内科的治療、合併する眼合併症、腎合併症、外科的な移植治療を紹介する。 ～メッセージ～ 1型糖尿病の患者さんが感じる困難さと、それに対して進歩している治療法について学んで下さい。 【皮膚科学】 乏汗症、無汗症、多汗症などの発汗機能異常症は、皮膚科的疾患のみにとどまらず、全身疾患の主訴になりえることがある。今回の講義では、皮膚科からみた発汗異常特に乏汗症における先天性疾患と後天性疾患の鑑別疾患について症例に沿って解説する。また先天性代謝異常などに関する遺伝子診断や管理についても解説する。 ～メッセージ～ 皮膚は内臓の鏡である。今回は皮膚特有の機能である発汗機能と全身疾患に焦点をあてて講義を行う。 【神経内科学】 肺炎球菌感染症を背景とする髄膜炎は頻度が高く、重篤であるため、早期診断加療が必要である。講義では当院で実際に経験した症例を取り上げ、複数の診療科の視点から解説する。 ～メッセージ～ 内科的治療と外科的治療によって良好な経過を得た症例です。 【精神医学】 激しい精神症状を伴ったCNSループスの症例をもとに臨床経過を提示します。他の精神疾患との鑑別や治療について解説します。 ～メッセージ～ 内科疾患における精神疾患、鑑別、治療に対する理解を深めてください。 【災害・救急医学】
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）	準備学習・復習、関連科目情報等については、授業中に別途指示する。
教科書・参考書等	各科のプリント
成績評価方法と基準	出席点

平成30年度6年次ユニオンレクチャー講義予定表
講義室:大講義室・A講義室(5/25(木)・5/31(水))

回	月日(曜)/時間/担当	講義項目	関連講座
1	5月21日(月)	発熱と皮疹	膠原病リウマチ内科学
	15:40~17:10		
	感染症治療学		
	大路 剛		
2	5月22日(火)	ダウン症候群の合併症	小児外科学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
	15:40~17:10		
	小児科学		
	西山 将広		
3	5月22日(火)	妊娠中に発症した副腎腫瘍の1例	産婦人科学 糖尿病・内分泌内科学
	17:20~18:50		
	腎泌尿器科学		
	福田 輝雄		
4	5月29日(火)	がんの集学的治療	放射線腫瘍科 食道胃腸外科学
	14:00~15:30		
	腫瘍・血液内科		
	船越 洋平		
5	5月29日(火)	胃癌患者の周術期管理	薬剤部 栄養管理部 リハビリテーション科
	15:40~17:10		
	食道胃腸外科学		
	山本 将士		
6	5月29日(火)	1型糖尿病の治療、合併症	眼科学 腎臓内科学 肝胆膵外科学
	17:20~18:50		
	糖尿病・内分泌内科学		
	廣田 勇士		
7	5月30日(水)	全身疾患と発汗異常症	腎臓内科学 小児科学
	15:40~17:10		
	皮膚科学		
	福永 淳		
8	5月31日(木)	肺炎球菌性髄膜炎の1例	感染症内科学 心臓血管外科学
	15:40~17:10		
	神経内科学		
	千原 典夫		
9	6月1日(金)	激しい精神症状を呈したCNSループスの1例	免疫内科学
	15:40~17:10		
	精神科神経科学		
	松山 賢一		
10			
	災害・救急医学		
	山田 勇		

科目名：個別計画実習

区 分	内 容	
学習指導教員 (チューター)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野教授・准教授(別表のとおり)
	備 考	※学生個々のチューターは5年次に決定する。 ※チューターは、個々の学生が計画する実習内容を、大局的な観点から個別に相談・承認・確認し、その実習計画に関して責任を有する。
学習指導教員 (個別計画実習担当教員)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野実習担当教員
	備 考	※各分野の実習担当教員は、学生が実習計画を策定するにあたり、各実習期において自科(分野)の実習を希望する学生に対して、その具体的な実習内容・実習先に関する情報提供や相談を行う。また実習協力病院に対して実習受入依頼を行い、時期毎の実習受入可能人数等を調整する。神大病院における実習時は、実習を担当する教員の代表として学生に対応する。
学 習 目 標	本実習は、学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施するものである。臨床実習のみならず研究室や海外での実習も対象とし、個々の学生に対して臨床関係の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容を吟味し指導を行う。 臨床実習では、5年次に行ったBSL(Bed Side Learning: 大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習)とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。 海外の実習では、外国での臨床実習または研究を通じて、異文化交流を深め、国際的な視野の獲得に勤めることを目標とする。 研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。	
実 習 の 形 式	実習期間を大きく次の3つの期間(実習期)に分ける。 第Ⅰ期：平成30年4月 2日(月)～ 5月18日(金) 第Ⅱ期：平成30年6月 4日(月)～ 7月20日(金) 第Ⅲ期：平成30年9月 3日(月)～10月19日(金) 原則として実習期ごとに異なる実習目的(実習分野)を掲げることとし、各期において設定した実習目的に基づき、個々のチューターと相談しながら実習計画を策定・実施する。各期において実習報告日を設け、実習状況を報告・確認するとともに、全実習終了時には実習内容に関する発表会を行う。	
臨床実習について	実習協力病院に対して実習を依頼し、実習協定書を取り交わす。 あわせて「臨床実習の手引き」を作成・送付する。	
成績評価方法	各チューターが、担当する学生の全期を通した評価を行う。 チューターは、各実習先における指導責任者の評価や、各期実習報告時の面談等における評価、自己評価及び発表会における評価等に基づき可否を判定する。 発表会における優秀者は、卒業証書授与時に表彰する。	

【別表】 チューター教員一覧(H30)

チューター教員名	教育研究分野名
平田 健一	循環器内科学
山下 智也	循環器内科学
西村 善博	呼吸器内科学
小林 和幸	呼吸器内科学
吉田 優	消化器内科学
豊永 高史	消化器内科学
小川 渉	総合内科/糖尿病・内分泌内科学
坂口 一彦	総合内科/糖尿病・内分泌内科学
西 慎一	腎臓内科学
南 博信	腫瘍・血液内科学
松岡 広	腫瘍・血液内科学
大路 剛	感染治療学(感染症内科)
飯島 一誠	小児科学
錦織 千佳子	皮膚科学
曾良 一郎	精神医学
菱本 明豊	精神医学
掛地 吉弘	食道胃腸外科学
角 泰雄	食道胃腸外科学
鈴木 知志	食道胃腸外科学
外山 博近	肝胆膵外科学
楠 信也	肝胆膵外科学/地域医療ネットワーク学
眞庭 謙昌	呼吸器外科学
田中 雄悟	呼吸器外科学(低侵襲外科学分野)
尾藤 祐子	小児外科
黒田 良祐	整形外科
酒井 良忠	整形外科/リハビリテーション機能回復学
甲村 英二	脳神経外科学
中村 誠	眼科学
丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学
大月 直樹	耳鼻咽喉科頭頸部外科学
出口 雅士	産科婦人科学/地域医療ネットワーク学
寺師 浩人	形成外科学
橋川 和信	形成外科学
溝渕 知司	麻酔科学
出田 眞一郎	麻酔科学
伊藤 智雄	病理診断学/病理部・病理診断科